

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970900142		
法人名	有限会社 ワンカラ		
事業所名	グループホーム 花みずき		
所在地	高知県宿毛市港南台2丁目9-25		
自己評価作成日	平成25年1月29日	評価結果 市町村受理日	平成25年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達は、利用者様が落ち着いて暮らしていけるように、ゆったりマイペースで生活できるように配慮しています。看取り介護対応や医療との連携も重視し、利用者様の健康には管理者でもある看護師が24時間対応できるようにしています。地域とのつながりも大切にし、職員には様々な研修を行い、利用者様により良いケアができるように努力しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigvosyoCd=3970900142-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成25年2月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は新興住宅街にあり、地域との繋がりに苦慮しているが、一人ひとりの利用者にとってより良いサービスを提供することを目指して職員の教育に力を入れている。内外の研修には事業所で活かせる内容を提案して参加し、受講者が全職員に伝達講習を行い、講習内容の周知徹底を図っている。また、理念の他にその時々々の状況を踏まえた月間目標を掲げ、全職員が参加する会議で自己評価と課題を報告し合い、日々のリハビリを兼ねたレクリエーションや行事についても、計画、実施、評価、改善点を記録するなど、サービスの質の向上に努めている。これらの取り組みは、職員にとっては厳しい中でも専門職として考えて判断するという力をつける機会にもなっている。日々のケアの場面では、利用者の声なき声に気づく事や介助が一方的にならない事に留意し、一呼吸置いたり少し引いて見るなど、その時々々の利用者のペースを大切に心へ寄り添い、息を合わせながら協働で行動する感覚等を養うなどのトレーニングをしている。利用者の表情が豊かで、口調も穏やかであり、利用者にとって居心地のよい環境であることが窺われる事業所である。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的で地域との関係を重視する理念を職員全員で確認し、カンファレンス等では理念に沿ったケアができるように、職員で具体的に話し合っている。	事業所独自の理念を掲げ、週2回のカンファレンス等で話し合っている。一人ひとりの利用者がその人らしい暮らしが出来るように支援すると共に、利用者間のトラブル回避や仲立ち、ワンタッチレベルでのスキンシップや声掛け等を行い、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や外出などで地域の方と挨拶を交わしたり、回覧板も利用者と共にまわしている。職場体験学習で、地元の中学生を受け入れている。毎月「花みずき便り」を配って、地域に事業所からの情報発信をしている。	自治会に加入し、地域の防災訓練には全員で参加している。毎月「花みずき便り」を全戸に配布し、認知症への理解を得るための内容やAED設置のお知らせ等の情報発信をしている。時折野菜や魚を頂くことはあるが、日常的な交流までには至っていない。	事業所自体が地域の一員として受け入れられ日常的に交流できるよう、運営推進会議を活用しながら現在の取り組みを更に工夫したり、地域の清掃活動等に積極的に参加するなど、地域に根付く取り組みを行うことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「花みずき便り」を配り、認知症や介護保険等について情報提供している。「認知症と家族の会」にも参加している。人材育成として、ヘルパー研修実習生の受け入れをしている。AEDを設置して、地域の方にも使えるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期で運営推進会議を開催し、行政・地域包括支援センター・民生委員・自治会長・市議会議員・家族会代表等に参加して頂き、ホームの情報を報告し、様々な意見等をもらうようにしている。	前回の外部評価を受けて運営推進会議を再開している。事業所から活動内容や評価結果等を報告し、参加者から質問や助言が出され双方向的な会議になっている。ただ、区長、民生委員、家族等の参加が少なく、会議結果を具体的に運営に反映させている事例も無い。	事業所の健全な運営と地域との良好な関係を築くためにも、家族や地域の代表が参加出来るように調整を行い、多方面からの意見を汲み上げ、サービスの質の向上に繋げることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者やホーム運営の件で随時相談し、指導やアドバイスをもらえる関係づくりに努めている。	事業所の取り組み等を随時伝えると共に、問題点等についても相談している。浄化槽を修理する際に、利用者の居場所として、一時的に地域のコミュニティセンターを借りるなど、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者が拘束を受けずに自由な生活が出来るように、鍵をかけず、車椅子のベルト着用やベッドを柵で囲む等は行わず、同時に安全面にも配慮して、職員による見守りを徹底している。	研修に参加した職員が伝達講習を行い、全職員に周知理解を深めている。利用者の求めに気がつかない時や、声掛けだけで利用者を促すようなことがある場合は、個々にきめ細かく指導し、利用者の自由な暮らしが確保できるように努めている。外出傾向のある利用者は見守り、リスクについても、適宜、家族と話し合っ支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会へ参加して知識を得て、態度や言葉かけが虐待にならない様に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や日常生活自立支援事業には、主に管理者が対応しているが、職員にも研修や管理者から説明して、制度を理解できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて、利用料金やリスクについて説明して、同意を得ている。利用者の状態が変わった場合には、重度化や看取り対応の医療連携についても家族と相談してその後の対応方針を決めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、家族会で無記名のアンケートを実施したり、家族宅を訪問して意見や要望を聞いている。	利用者からは、日々の生活の中で希望等を聞いたり仕草や表情から判断し、家族からは、家庭訪問やアンケート等を通じて意見を汲み上げ、運営に反映させている。前回の評価を受けて年2回家族会を開催しているが、家族同士の話し合いについては、家族から必要ないと言われ、実施していない。	家族は事業所に遠慮して意見や要望を言い出し辛いことや、積極的に関わりたくないこともあるので、事業所から働きかけて、家族同士が集まり話し合えるような機会を作ることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションをとるようにしているが、不満や苦情は言い難い部分も多いので把握しきれていない可能性もある。	日常的に職員の個人的な相談に応じ、意見等を聞く機会を作っている。毎月の職員会でも職員から意見を聞いており、休憩時間を確実にとることが提案され実行するなど、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者も現場の様子を把握して、職員の努力や実績を把握している。業務内容が偏らないように、シフト毎の業務内容や時間の見直しもしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内及び社外の研修機会を多く提供し、参加できなかった職員にも、伝達講習等で共通意識をもてるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の事業者団体の会合には積極的に参加して、事例報告等を参考にしている。H25年から発足予定の地域の事業所団体にも、立ち上げ時から参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所事前に面談し、顔なじみになって、不安感を取り除くように契約手続き等は別日にし、あえて気軽な面談にして、信頼を得るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と管理者のみで面談し、本人の前では言いづらい事も言い易い環境をつくり、家族の本心を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の希望を確認し、状況により他のサービスを検討するなど柔軟な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段から経験豊富な利用者から、色々と職員に教えてもらうことも多くある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員が毎月手書きの手紙で本人の様子を伝え、関係が途切れないようにして、ご家族が気軽に訪れる雰囲気作りにも留意している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時から通っている美容院に続けて行っている利用者、年に一度墓参りに行ったり、毎月買い物に行く利用者等おり、今までの生活習慣等尊重するようにしている。	これまでの暮らしの情報は把握しており、家族の協力を得て美容院や墓参りに行っている。事業所を退去し施設に入所した方を毎月訪問したり、行きつけの店に買い物に行くなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係に配慮し、利用者同士のいさかい時にもさりげなく職員が間に入るようにして、食事の席配置にも配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、新しい入院先や入所先に面会に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の言動から意向を把握するようにしたり、本人だけでなく家族からも情報を得ている。	日々の生活の中で話を聞き、また、表情や仕草で判断して、一人ひとりの意向に沿えるように努めている。ケアの場面では、職員の一方的な判断に陥らないよう、一呼吸置いたり少し引いて見てみるなど、その時々ペースを大切にケアを行うように注意し合って支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から聞いたり、今まで利用していたサービスから引き継ぎで聞いたりして情報を得ている。入所時だけでなく、本人や家族との普段の会話から過去の話を知る事も多い。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の流れで変化があれば記録して、職員間で情報を引き継ぎ、定期的なカンファレンス等で職員間で対応について話し合う機会を持っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態が変化した時は、随時計画の見直し・変更を行い、アセスメントやモニタリングも担当職員から話を聞いている。	本人や家族の意向を聞き、気になることは週2回開催するカンファレンスで情報交換をし、サービス担当者会で話し合っ、介護計画を作成している。モニタリングや計画の見直しは6か月毎に行い、状況に変化があればその都度見直している。一日の暮らしを詳細な計画にして、その人らしい暮らしに繋げるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別の食事、水分、排泄、バイタル等細かな記載をし、職員間で情報が共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の体調に応じて、通院が必要な場合には迅速に対応し、家族の状況にも応じて、出来る限り支援するように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に、市役所・地域包括支援センター・地域の自治会長・民生委員等の方に出席していただき、協力関係を築いている。当施設工事の際には、地元のコミュニティセンターをお借りして、1日過ごした。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に利用者と家族の希望する病院をかかりつけ医にしている。訪問診療に来てもらうケースもあり、受診も職員が同行する事が多い。	今までのかかりつけ医や希望する医療機関に受診している。通院は基本的に家族の対応としているが、困難な場合等は職員が同行している。受診結果については互いに報告し、家族や全職員で情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師の兼務をしているので、24時間対応しており、毎日の健康チェックや医療的処置を行っている。介護職員もバイタルチェックや普段の様子と変化があった時には、随時報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、情報提供書や緊急時フェイスシートを病院に提出し、連携を取り易くしている。入院中も職員が面会に行き、退院に関しても病院・家族と相談しながら進めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りと重度化した場合の指針を説明し、本人・家族の意見を書面で確認している。かかりつけ医の意見も、家族を交えて話し合っている。	入居時に「看取りに関する指針」に沿って説明し、利用者や家族の意向を書面で確認している。看取りの時期が近づくと、再度、かかりつけ医と家族を交えて話し合い、意思の再確認と看取り介護の方針を共有して、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを整備し、研修でも消防署の協力を得て、蘇生法や救急手当ての方法を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民と共に避難訓練に参加し、自主的に夜間の避難訓練、消防署への通報訓練も定期的に行っている。運営推進委員会でも、地域からの協力の申し出を受けている。備品については、現在入替え中。	消防署の協力を得て、地震と火災を想定した避難訓練を実施している。前回の外部評価で課題となった地域住民の参加は得られていない。また、非常用食料等は全て入れ替え中ということで、何も準備出来ていない。	災害時に備え、運営推進会議を活用するなどして日常的に地域との交流を深め、地域ぐるみの防災対策に繋がる協力関係を築くことを期待したい。また、非常用食料等の備蓄を早期に行うことが必要である。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1番に本人の気持ちを大切に考え、ケアに取り組んでいる。利用者の個人情報などは守秘義務として外部に持ち出さないよう管理している。	入浴や排泄等の介護場面では、他者に見聞きされないよう注意すると共に、利用者の同意を得ながら手伝えることを心がけている。また、人生の中で輝いていた頃の話が自ら出来るよう、きっかけ作りを大切にして取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めたりせず利用者に声掛けし意見を聞くなどし、意思表示が困難な方には表情を読み取るなど、出来るだけ本人の希望に合わせるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人たちに合った1日を過ごしていただく。外出好きな方には月1回の買い物の日を決めて出かけるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時の服などは、本人の意思で決めている。支援が必要な方には職員が考え毎日同じ服にならないようにしている。カットや毛染めは、利用者によっては馴染みの店でしていた		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に料理の下ごしらえなど出来る事は一緒にして作り、セッティング・片付けも共に行い、職員も同じ席に付き会話をしながら楽しく食事をしていただくよう気を付けている。	食材と献立は業者に委託しているが、利用者の好みや行事に合わせてメニューを選択するようにしている。また、さしみ等を追加し、その時々利用者の希望に沿えるように努めている。食事の準備や後片づけ等は、利用者が得意な事を職員と一緒にいき、食事も共にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量を記録し、どれくらい摂取されているか把握している。水分が足りない方には、好きなジュースなど工夫して、必要量を摂取できるようにしている。特別嚥下食を用意して、飲み込みやすい食品を用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に声かけして行って頂く。自力で困難な方には口腔ティッシュでケアするなど、一人ひとりに対応するようにしているが、拒否する人もいますので毎食後、全員に対して完全にはできていない。毎食前に嚥下体操を行い誤嚥の予防に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮し、声かけを周りの利用者聞こえない様に誘導し介助している。尿意ない方には時間を決めて誘導したり、定期的にオムツ交換・洗浄をしている。紙パンツ、パット類も本人に合わせて検討している。	排泄パターンや排泄のサインをチームで共有し、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。また、排泄用品の使用は最小限になるようきめ細かな支援を行い、紙パンツから布パンツに改善した事例も多い。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には水分補給や散歩、適度な運動などしていただいている。 繊維質の多い食品を提供している。水分補給の重要性を職員が認識している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴したい日や時間など利用者に合わせた時間に入浴して頂いている。シャワー浴の方には足浴するなど工夫して行っている。入浴の順番や時間帯も個々の状況や希望に合わせて選択している。	入浴は基本的には午後実施しているが、希望に応じて毎日の入浴や夜間の入浴も出来る体制を整えている。入浴を拒否する利用者には声掛けを工夫したり、時間をずらしたり、その日に相性の良い職員に交替する等工夫して、入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムが崩れないよう整えている。寝付けない方には飲み物を飲みながら会話をしたり、心地よく眠りにつけるよう配慮している。日中の活動に配慮している。眠剤使用に対しては、日中での眠気について把握、確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬を把握している。利用者が服薬する前に、最低3度は確認を行うようにしている。内部の勉強会にて薬に対する理解を深めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理の下ごしらえや洗濯畳みやしわ伸ばし、書きもの、裁縫などそれぞれの得意分野の事をして楽しんでもらっている。手紙や漢字の読みを書いたり、文章を書くなどしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回の行事を行い利用者の希望も取り入れて行っている。車や車椅子を利用し、積極的に戸外に出る事を行っている。一人ひとりに合わせて買い物外出や、友人に会う為の外出を支援している。	天気が良い日はほぼ毎日散歩に出かけ、外気に触れることで季節を感じ、利用者の思い出話を聞くなど、大切な時間として外出支援に取り組んでいる。買い物には月1回出掛け、花見、温泉、花火観賞、初詣等にも、車いすの利用者も一緒に出かけ、外出を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出納は事業所で小遣い帳に記帳し、毎月家族あてに郵送して確認してもらっている。希望や能力に応じて、自分で小額所時したり、買い物時に支払いしてもらうように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望通り電話を気軽に掛けていただいたり、年賀状や暑中見舞いを書いて出したりしている。職員からも毎月ホームでの日常生活やあった出来事などを書いて、家族あてに出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールを季節に合わせて利用者と一緒にアクティビティなどで作った物を飾ったり、カレンダーの日付けを毎日変えて頂いたりしている。	食堂兼居間の壁面に、利用者の書道作品や折り紙で作った雛飾りを展示し、カウンターには椿の花を活けるなど、季節感や居心地の良さに配慮した工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに長いソファを置き何人かで座り会話を楽しむスペースにしている。外にもベンチを置き日向ぼっこや散歩後の休憩場所に使用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や思い出の品など置いたり、利用者が今まで使っていた家具などを配置し、自宅と変わらないような居心地よさに努めている。	ベッドとタンスは備え付けであるが、姿見、化粧箱、マッサージ器、ぬいぐるみ、造花等、思い思いの物を持ち込み、個性豊かな居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態や変化に合わせて、その度カンファレンスをしたり、月1回ホーム会を開いて話し合いをして、より良い生活を送れる環境整備に努めている。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				